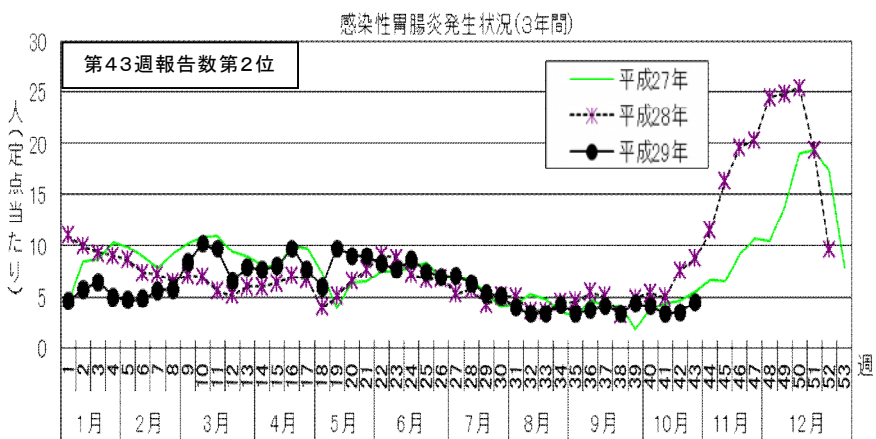
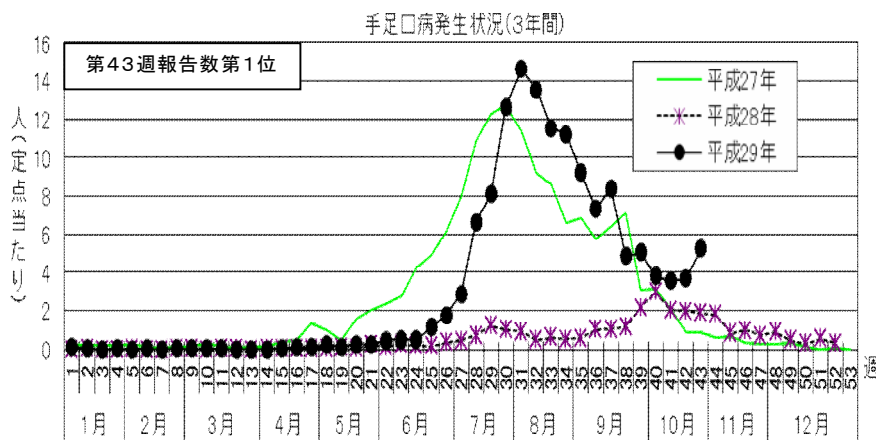


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成29年10月23日（月）～平成29年10月29日（日）〔平成29年第43週〕の感染症発生状況

第43週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)手足口病 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 手足口病の定点当たり患者報告数は5.27人と前週（3.68人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.51人と前週（3.57人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.84人と前週（2.16人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。



インフルエンザの地域的な流行がみられています！

インフルエンザは例年12月～3月頃に流行し、1月～2月にピークを迎える冬季の代表的な呼吸器感染症です。

まだ流行期ではありませんが、特に多摩区（定点当たり患者報告数1.75人）で報告が多くなっており、地域的な流行がみられています。

昨シーズン（2016/2017シーズン）はA香港型が流行の中心でしたが、現在、健康安全研究所に搬入されている検体からは、2009年に流行したAH1pdm09型が検出されています。

ワクチン接種などの対策は、お早めにご検討ください。

今シーズンのワクチンについて

今シーズンのワクチンは、A型2種類、B型2種類の計4種類が含まれています。

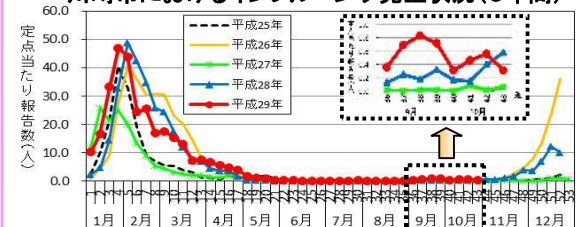
- A/H1N1亜型（2009年以降の流行株）
- A/H3N2亜型（いわゆるA香港型）
- B型（山形系統）
- B型（ビクトリア系統）

※A/H1N1亜型のワクチン株のみ昨年度と異なります。



一般的に、ワクチンの予防効果が期待できるのは、接種した（13歳未満の場合は2回接種した）2週間から5か月程度までとされています。

川崎市におけるインフルエンザ発生状況(5年間)



血清型別インフルエンザウイルス検出状況

(平成29年10月31日結果判明分まで)

